

## 空を仰いで

「経験がない」と誰もが言う異常な少雪に空を仰いでいます。雪を前提として経済が成り立っている当市では、観光業や除雪作業を担い市民の生活を守る建設業を中心に悲痛な状況となっています。本稿を書いているのが1月半ば、一日も早く順調な降雪となり、この市報が届く2月には雪国本来の美しさを取り戻してほしいと、切に、切に願っています。

1月15日(水)、石打丸山スキー場の70周年記念祝賀会に参列しました。終戦間もない昭和24年、市内で最初に開設されたスキー場です。待望のリフト架設は昭和29年。当初は村人が足踏みでコースを作り、物資乏しい時代であって、訪れる観光客には家人や隣家の布団を融通し、自前の食材などできる限りのもてなしをしたそうです。

現在は「インバウンド」や「民泊」「6次産業化」などと言いますが、まさに当地の民宿は地産地消が出发点。外国人を都会人に置き換えれば、今も昔も根本は変わらない。コシヒカリや地酒の魅力に価値を付

け、世に知らしめた大きな発信源はスキー観光にあったと言っているでしょう。この産業の原点は「出稼ぎ解消」その一念だったことなど、若い時分から地域の観光協会長の職務に就いていたため、さまざまな地域の歴史について、当時を知る先達から聞かされてきました。

「開設初年にどうやって誘客をしたのか？」上野駅に降り立った村人たちが手にしていたガリ版刷りのチラシ。そこに書かれた今でいうキャッチコピーは「白い雪と白い米」。復興半ばの首都の雑踏に、当時の若き先輩たちはどんな思いで立っていたのか。心細くも、希望に燃えていたのではないか。今が当たり前ではない、袖を引き宣伝し訴えたのだと。

ぎりぎりの積雪の中、必死の思いで営業を続けるスキー場の祝賀会場に向かう道すがら、すでに鬼籍に入った祖父や父、多くの先達の顔が思い出されてならなかったのです。この状況は深刻だ。しかし、へこたれていては「罰が当たる」と、自分に言い聞かせつつ。

## 国際大学留学生 お国自慢コーナー ～boast of my country～

## モンゴル国 ツェヴェーンジャブ ハナー さん



## 私の国はこんなところ

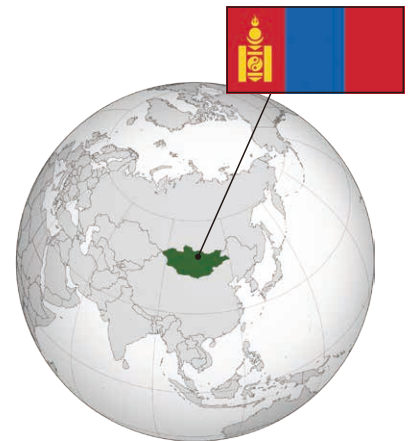
ロシアと中国の間に位置するモンゴルは、世界で19番目に大きく、内陸国では2番目に大きい国です。首都ウランバートルは、人口の約半数が住む比較的人口が密集した地域です。

一方で、田舎は非常に美しく、静かで新鮮な空気と青空、多くの素晴らしい自然の創造物を楽しむことができます。主要産業としては、6,500万頭の家畜からなる畜産業や鉱業が有名です。

## 南魚沼市に住んで感じたこと

好きな思い出は、日本人のサービスと美しい心を感じることができたことです。空港をはじめ日本各地で感じる事ができました。何か尋ねると、誰でも必ず協力してくれます。彼らが英語を話せなくても説明を理解することができます。

日本の美しさを探求したいなら、南魚沼を選んでください。美しい考え方や誠実で協力的な人びとに出会う事ができます。更に、南魚沼で見つけることができる興味深いものの1つとして「浦佐毘沙門堂裸押合大祭」があります。ほかにもスキーや花火、さまざまな驚くべき行事や文化を体験できます。



## モンゴル国

公用語	モンゴル語
首都	ウランバートル
面積	1,564,100km <sup>2</sup> (19位)
人口	3,238,000人
GDP(PPP)	268億ドル (121位)
通貨	トグルグ (MNT)

※ GDPは国内総生産のことで、購買力平価説 (PPP) により算出した数値です